



平成28年5月20日

各 位

会 社 名 関東電化工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 長谷川淳一
(コード番号 4047 東証第1部)
問合せ先 人事総務部専任課長 上原佳浩
(TEL. 03 - 3257 - 0371)


平成28年3月期 決算・中期経営計画 説明会資料

当社では、本日5月20日、機関投資家・証券アナリスト向けに平成28年3月期 決算・中期経営計画説明会を開催いたします。

平成28年3月期 決算の概要、今後の業績見通しと中期経営計画について説明いたしますが、その資料を添付いたします。

以 上

平成28年3月期 決算・中期経営計画説明会

 関東電化工業株式会社
平成28年5月20日

1

説明内容

1. H28/3月期 決算の概要
2. 業績の見通し・中期経営計画

※増減率を除き、表示単位未満は切り捨てて表示

事業セグメント

名 称		内 容
基礎化学 品事業	無機製品	か性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、塩化アルミニウム等
	有機製品	トリクロールエチレン、パークロールエチレン、塩化ビニリデン、シクロヘキサノール等
精密化学 品事業	フッ素系 製品	六フッ化硫黄、四フッ化炭素、三フッ化メタン、六フッ化エタン、三フッ化窒素、ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン、八フッ化プロパン、六フッ化タンゲストン、四フッ化ケイ素、三フッ化塩素、八フッ化シクロブタン、五フッ化ヨウ素、モノフルオロメタン、硫化カルボニル、六フッ化リン酸リチウム等
鉄系事業	鉄系製品	キャリアー、マグネタイト、顔料、鉄酸化物等
商事事業	関電興産(株)	化学工業薬品の販売および容器整備、保険代理店業務等
設備事業	(株)上備製作所	工場プラント建設、工場設備保全工事等

関東電化工業株式会社

3

関東電化グループ(連結子会社)

(単位:百万円)

	資本金	出資 比率%	H28/3末 個別売上高	対前期 増減	主要な事業内容
関電興産(株)	10	100.0	6,335	622	化学工業薬品の販売および容器整備、保険代理店
(株)上備製作所	120	49.4	3,305	539	化学工業用設備の製作・加工・修理
森下弁柄工業(株)	27	52.9	868	△93	鉄酸化物の製造販売
関東電化KOREA (株)	3 億ウオン	90.0	9,065	1,711	フッ素系製品の販売
台湾関東電化股份 有限公司	7 百万NTドル	100.0	4,386	1,214	フッ素系製品の販売

合計	23,960	3,994
----	--------	-------

関東電化工業株式会社

4

連結・個別損益の概要

(単位:億円)

連結決算					個別決算			
	H27/3 (倍率)	H28/3 (倍率)	増減	増減率 (%)	H27/3	H28/3	増減	増減率 (%)
売上高	383 (1.11)	430 (1.10)	46	12.1	344	390	46	13.4
営業利益	46 (1.17)	86 (1.06)	40	87.1	39	81	41	105.2
経常利益	48 (1.17)	87 (1.08)	38	79.2	41	81	39	94.1
親会社株主に 帰属する 当期純利益	45 (1.15)	80 (1.04)	35	77.9	39	77	38	96.8

関東電化工業株式会社

5

連結決算のポイント

(単位:億円)

	H27/3	H28/3	差額
売上高	383	430	46
営業利益	46	86	40
純利益※	45	80	35

※親会社株主に帰属する当期純利益

(1) 売上高増加 (+46億円)

- ・基礎化学品事業部門は、販売数量の減少と販売価格低下により減少(△4億円)
- ・精密化学品事業部門は、販売数量の増加と価格修正効果により増加(+57億円)
- ・鉄系事業(△2億円)、商事事業(△1億円)、設備事業(△2億円)

(2) 営業利益増加 (+40億円)

- ・販売数量の増加と価格修正効果等により増益
基礎化学品事業部門(+0.9億円)、精密化学品事業部門(+39億円)
鉄系事業(△0.2億円)、商事事業(前期並)、設備事業(+1.3億円)

関東電化工業株式会社

6

基礎化学品事業部門

(単位:億円)

	H27/3	H28/3	差額
売上高	69	65	△4
営業利益	0.9	1.8	0.9

【売上高】

- ・か性ソーダおよび塩酸は販売数量の減少と販売価格低下により減収。
- ・トリクロールエチレンは販売数量の増加と価格修正効果により増収。

【営業損益】

- ・売上高は減少したものの、原価改善効果により増益。

関東電化工業株式会社

7

精密化学品事業部門

(単位:億円)

	H27/3	H28/3	差額
売上高	243	301	57
営業利益	38	78	39

【売上高】

- ・三フッ化窒素は価格修正効果により増収。
- ・六フッ化タングステンは販売数量の増加と価格修正効果により増収。
- ・六フッ化リン酸リチウムは販売数量の増加と価格修正効果により増収。

【営業損益】

- ・売上高が堅調に推移したため増益。

関東電化工業株式会社

8

鉄系・商事・設備事業部門

(単位:億円)

	H27/3	H28/3	差額
売上高	70	63	△6
営業利益	6	7	1

【鉄系事業】

キャリアーおよび鉄酸化物の販売数量が減少したため、減収減益。

【商事事業】

連結子会社である関電興産の化学工業薬品の販売減少により減収(営業利益は前期並)。

【設備事業】

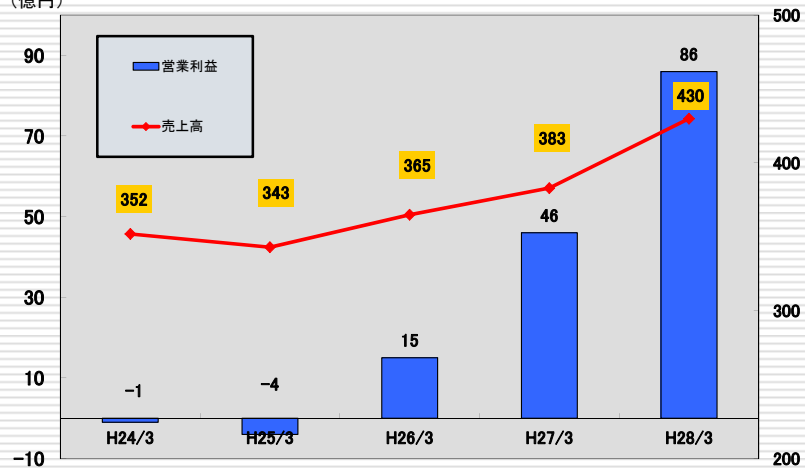
連結子会社である上備製作所における請負工事の減少により減収。営業利益は原価率が改善したため黒字化。

関東電化工業株式会社

9

売上高と営業利益の推移(連結)

(億円)

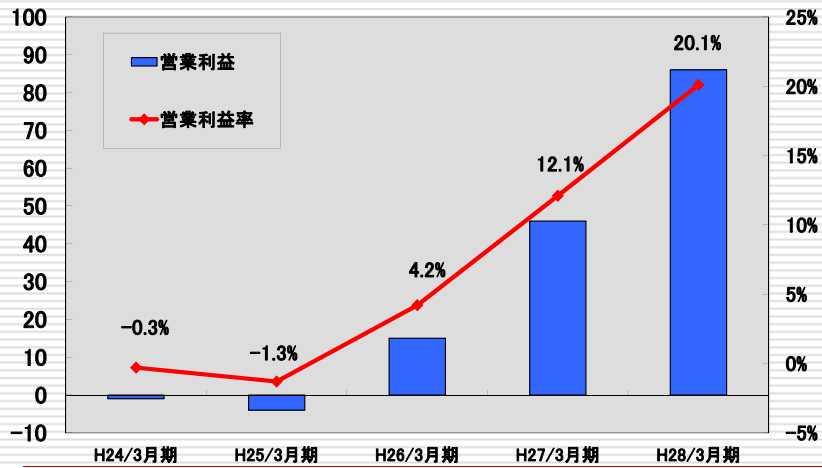


関東電化工業株式会社

10

営業利益と営業利益率の推移(連結)

(億円)

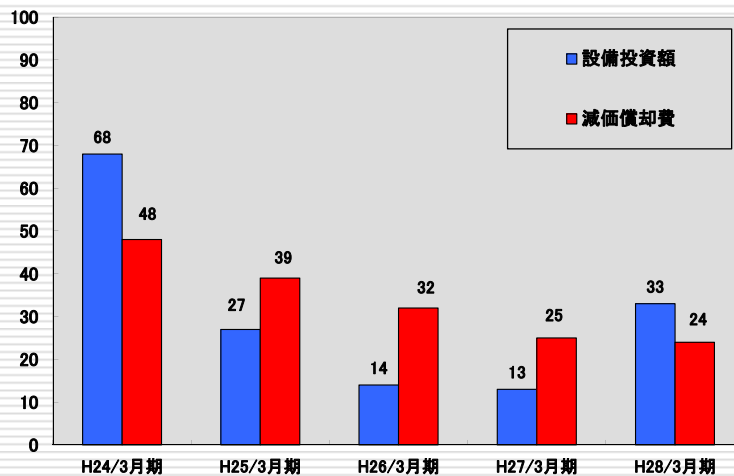


関東電化工業株式会社

11

設備投資・減価償却費の推移(連結)

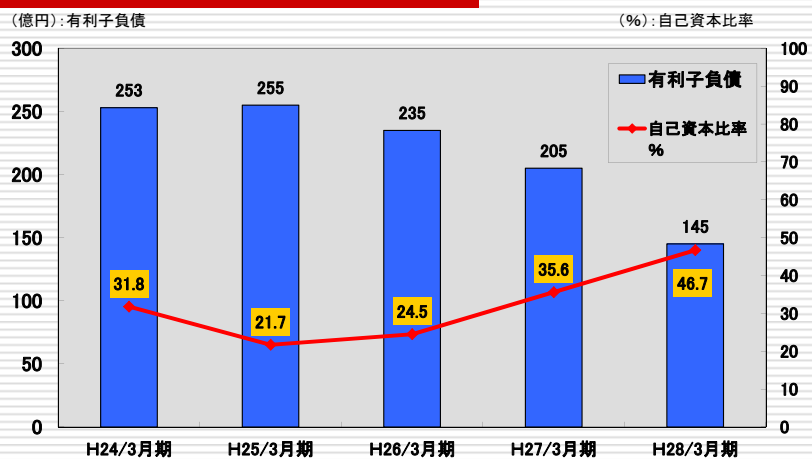
(億円)



関東電化工業株式会社

12

有利子負債・自己資本比率の推移(連結)



(注)H25/3月期以降はリース債務を含む

説明内容

1. H28/3月期 決算の概要
2. 業績の見通し・中期経営計画

セグメント別業績予想(連結)

(単位:億円)

	売上高			営業利益		
	H28/3	H29/3	差額	H28/3	H29/3	差額
基礎	65	63	△2	1	4	2
精密	301	323	21	78	66	△12
その他※	63	75	11	6	6	△0
合計	430	461	30	86	76	△10

設備投資	33	74	40
減価償却	24	31	7
研究開発費	11	14	3

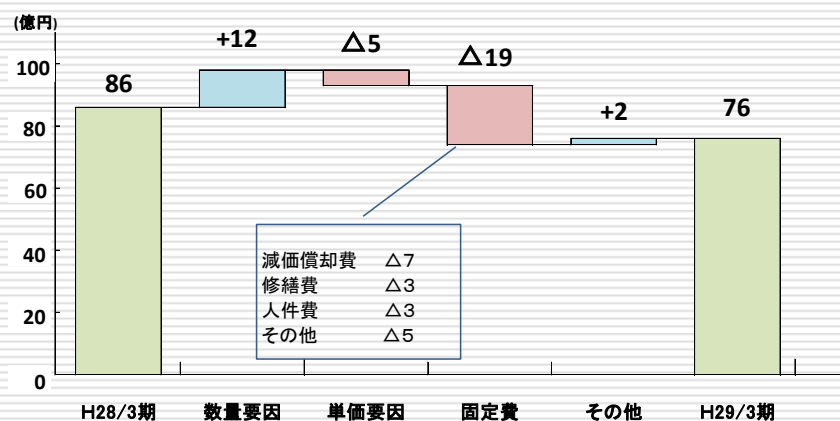
※その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

※為替レート見込:110円/\$

関東電化工業株式会社

15

連結営業利益差異分析



関東電化工業株式会社

16

セグメント別業績予想(連結) 上期下期比較

(単位:億円)

	H29/3売上高			H29/3営業利益		
	上期見込	下期見込	差額	上期見込	下期見込	差額
基礎	30	33	3	1	3	2
精密	154	169	15	29	37	8
その他※	39	36	△3	3.5	2.5	△1
合計	223	238	15	33.5	42.5	9

設備投資	43	30	△13	※その他は、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。
減価償却	13	18	5	
研究開発費	7	7	0	

関東電化工業株式会社

17

—中期経営計画— 数値目標(連結)

(単位:億円)

	H29/3	H30/3	H31/3
売上高	461	515	550
(うち精密化学品)	323	377	412
営業利益	76	87	100
(うち精密化学品)	66	77	90
経常利益	77	88	102

※設備投資・・・3年間合計200億円

関東電化工業株式会社

18

—中期経営計画— 基本コンセプト

□基本コンセプト

この3年間において、外部環境の変化に耐え得る強靱な企業体質づくりにより更なる成長を目指すとともに、普遍的なものづくり力と技術的ソリューションを提案することにより**間断なく新規製品を開発し市場に提供する「創造的開発型企业」**を目指す。

□企業目標

- ①基本3課題の推進
(安全第一主義・稼ぐ関東電化の実現・全員開発)
- ②既存事業の収益力強化
- ③新規製品の早期創出

—中期経営戦略— 主要施策(1)

□精密化学品事業

(1)フッ素系特殊ガス

- ①積極投資によるシェア拡大
- ②既存設備の生産性向上、新規生産技術の確立
- ③海外での生産活動・研究活動の検討

(2)電池材料

- ①新規生産技術による生産能力拡大
- ②コストダウンによる収益力の強化

—中期経営戦略— 主要施策(2)

□基礎化学品事業

- ①コストミニマム運転による限界利益の最大化
- ②生産性の向上とコストダウンの徹底
- ③新規製品の探索

□鉄系事業

- ①コーティング技術を応用した新規用途の開拓

—中期経営戦略— 主要施策(3)

□研究開発

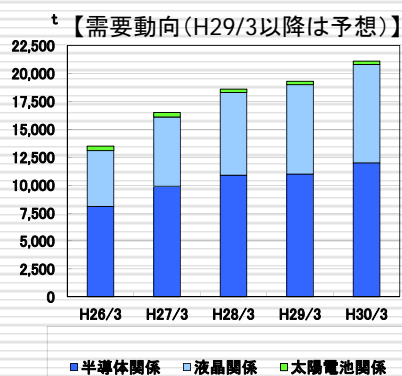
- ①顧客との交流促進・オープンイノベーションの実施
- ②目標管理とスケジュール管理の徹底

□資材戦略

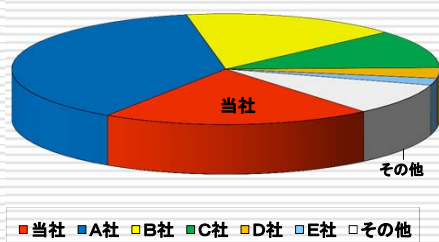
- ①新規調達先の開拓
- ②原材料の多様化
- ③長期的パートナーシップの構築

ー主な製品の見通しー 三フッ化窒素(NF3)

- 半導体・液晶製造プラズマCVD装置のチャンバークリーニングガス。
- 製造能力 3,500t/年



【現在のシェア予想】
当社シェアは約2割

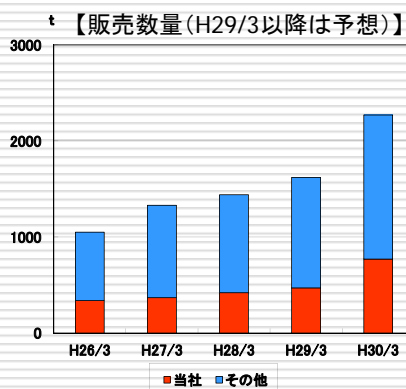


関東電化工業株式会社

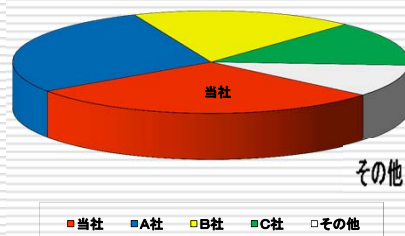
23

ー主な製品の見通しー 六フッ化タングステン(WF6)

- 半導体用配線材料ガス。
- 製造能力は300t/年。(能力倍増に向けて増設中)



【現在のシェア予想】
当社シェアは約3割



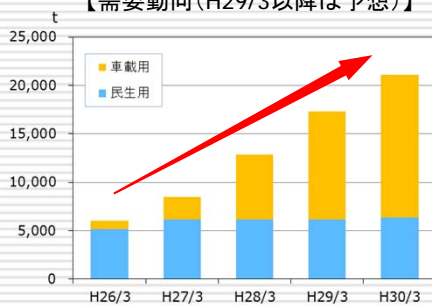
関東電化工業株式会社

24

—主な製品の見通し—六フッ化リン酸リチウム (LiPF₆)

- リチウムイオン二次電池の材料である電解質。
- EV等の車載向け需要が本格化。
- 製造能力は2,400t/年。

【需要動向 (H29/3以降は予想)】

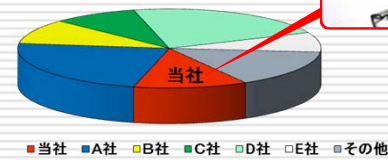


車載用電池

電池特性、安全性等の要求が強い
▶ 高品質のLiPF₆が必須となる

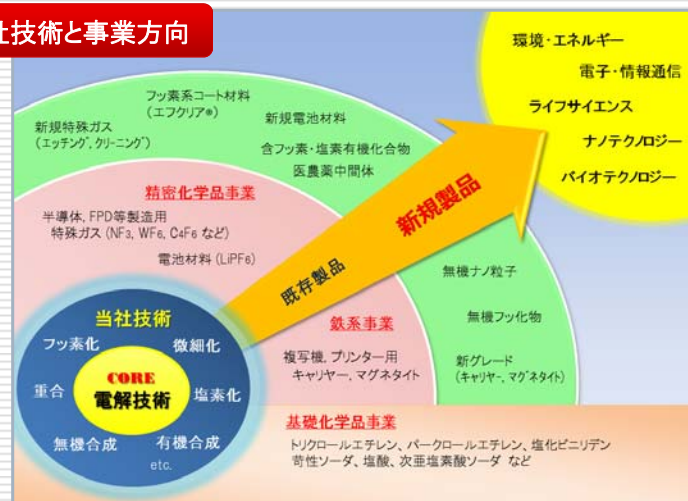
【現在のシェア予想】

当社シェアは1割台半ば

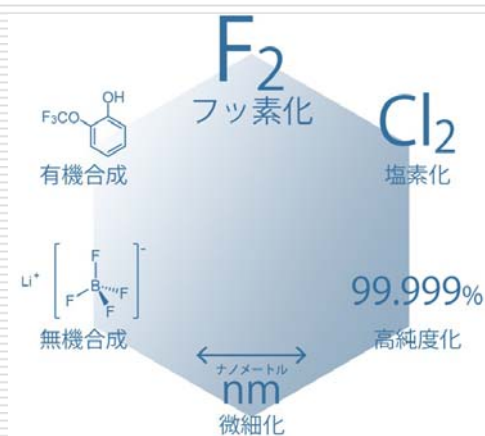


創造的開発型企业へ

当社技術と事業方向



当社のコア技術



注意事項

- 本資料は、金融商品取引法等のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なります。